



子どもも大人もお年寄りも ほっとできる居場所

「にこにこ」食堂 ざしきわらしの家



管理人 田中信明さんと代表 中村久美子さん

二戸市民などによるボランティアグループ「にこにこ食堂ざしきわらしの家（以下、「にこにこ食堂」と表記。）」は、昨年9月に設立され、「子ども真ん中にみんな笑顔で福くる」を合言葉に、子どもやお年寄りの居場所づくりを目指し活動しています。

● ● ●

代表 中村久美子さん（有限会社志賀煎餅会長）は、県の食品衛生協会二戸支会会長も務めており、さまざまな分野の方とのネットワークをお持ちの方です。

中村さんは、以前、地域のお年寄りたちと「じじばば食堂」を定期的に開いていましたが、拠点となっていた場所が道路の改修工事により利用できなくなつたこと、同時期にコロナ感染症が流行し始めたことから、それ以降、開催できずにいました。「お年寄りには、残された時間の中でも青春を味わつてもらいたい。そして、『いがつたなあ（良かつたなあ）』と思って旅立つてもらいたい。その思いがいつも心の中にあつた」と中村さんは以前からの思いを語られました。

管理人を務める田中信明さんは、新聞記者の経験をお持ちで、7年ほど前に埼玉県から岩手県に移住してきました。食べることは好きだけど料理経験がほとんどない田中さんの思いが、田中さんとんとん拍子でお二人の思いが形となつていき、現在、10人程の調理ボランティアと広報・企画を担当する若者ボランティアがメンバーに加わってい

どなかつたと話す田中さん。2017年に市の食生活改善推進員養成講座を受講したことで「食」の面白さに気づき、また、昨年8月に二戸市内で開催された「こども食堂10周年記念」の公開ワークショップ（子どもの居場所ネットワーク）にて主催、認定NPO法人全国子ども食堂支援センター（むすびえ共催）に参加し、二戸市内に子ども食堂がないという実態を改めて理解したことから、子ども食堂の立ち上げを決意したそうです。

● ● ●

子ども食堂を始めるにも何から手を付けてたら良いのかわからなかつた田中さんは、食生活改善推進員協議会事務局に相談したところ、「まずは中村久美子さんを口説きなさい」と中村さんを紹介されました。中村さんを突撃訪問し「子ども食堂をやりたい」と相談すると、「私もずっとやりたかったのよ。じじばばも子どもも一緒。そういうの待つてたわ」と意気投合。これがまさに中村さんの思ひと田中さんの思いがつながつた瞬間でした。

そこからとんとん拍子でお二人の思いが形となつていき、現在、10人程の調理ボランティアと広報・企画を担当する若者ボランティアがメンバーに加わってい



令和5年2月19日開催の子ども食堂